

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境影響評価審査会				
事務局 (担当課)		環境政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 0 (直通)				
開催日時		令和 3 年 8 月 1 1 日 (水) 1 8 時 0 0 分 ~ 1 9 時 5 0 分				
開催場所		現地・オンライン併用開催 (現地会場:ソレイユさがみ セミナールーム 1)				
出席者	委員	1 2 人 (別紙のとおり)				
	その他	3 人 (事業者)				
	事務局	7 人 (環境共生部長、外 6 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		1 開会 2 議題 (1) 諮問 「(仮称)相模大野 4 丁目計画」環境影響評価準備書 (2) 報告 「中央新幹線 品川・名古屋間」事後調査結果報告書				

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

### 1 開会

定足数の確認の上、開会した。

### 2 議題

片谷会長の進行により議事が進められた。

#### (1) 「(仮称)相模大野4丁目計画」環境影響評価準備書

「(仮称)相模大野4丁目計画」に係る環境影響評価準備書について、本審査会への諮問があり、「資料1」を基に、その手続状況が事務局から説明された。

その後、事業者から当該準備書の概要が説明された。説明の中で、方法書の審議にて実施すると報告していた「風環境」の風洞実験について、次回審査会までに追加資料として提出する旨の報告があった。

審議に入る前、片谷会長から、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策で会場の使用時間が20時までとなっており、また、議題として報告事項も控えていることから、本審議にあたってはポイントを絞った意見にしてほしい旨、発言があった。

(石井委員) 11項目の意見を用意したが、時間の制約があるとのことで、これらの意見全体に関わる前提となる話だけをする。個別の意見は事務局を通じて事業者伝えてほしい。

環境省の「環境アセスメント法とは」の資料内容から2項目を伝える。まず、環境アセスメントとは、開発事業の内容を決めるに当たって、それが環境にどのように影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者自らが調査・予測・評価を行い、その結果を公表して一般の方々、地方公共団体などからの意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からより良い事業計画を作り上げていこうという制度であるとされている。ここを事業者として理解しているか。

次に、環境アセスメントの実施という項目では、「目標クリア型」環境アセスメントではなく、複数案の比較検討や、実行可能なより良い対策を取っているかどうかの検討などにより、環境影響をできる限り回避、低減するといった視点からの「ベスト追求型」環境アセスメントを行うこととしている。これに関係する個別事項を事務局に送付するので、事業者の方で検討してほしい。

(片谷会長) 具体的な個々の内容については後日、事務局経由で事業者に送付することとなるが、アセスを行う上での姿勢という部分での根本的な指摘について、

事業者として現時点でコメントはあるか。

(事業者) 開発事業を決めるというよりは、事業者の事業計画に基づき、アセスメントを行っている。アセスメント以外でも周辺の住民の方々の意見を聞く機会を設けていて、それを吸い上げて、例えば風環境など、住民が懸念を抱いているところについて重点的に保全措置を検討しているということで理解をいただきたい。

(片谷会長) 基本的な姿勢の部分について回答があった。石井委員においては、個別の質問、意見が出された後、この点も含めて、次回以降の審査会にて発言をいただきたい。

(片谷会長) 大気質について。二酸化窒素の環境保全目標が 0.06ppm となっているが、誤り。現況で 0.04ppm に満たない地域は 0.04ppm 以下を維持しなければならない。

(事業者) 評価書で適切に改める。

(持田委員) 植物について。準備書 401 ページ、「群集」に誤字があるので訂正してほしい。高木層と低木層については現地調査を行ったことだが、どのような手法を用いたか。毎木調査をしたのか。それとも、ブロン・ブロンケ 1964 を用いた群落調査を行ったのか。表 8.5-5 もラフな表に見える。

(事業者) 誤字は改める。確認して、別途補足説明をする。

(桑原委員) 全般について。準備書の各項目の「評価」を読むと、昔の環境影響評価だという印象を受ける。「著しい影響を与えることはない」という評価がされているが、「可能な限り回避、低減ができていないか。回避、低減できない場合には取られる代償措置を示した上で、全体として見れば環境への影響はない」という評価方法がとられるべき。

(桑原委員) 植物について。準備書 201 ページの評価の手法の環境影響要因に「施設関連車両の走行」と記載があるが、どういう意味か。評価の手法としては、「可能な限り回避又は低減されているか」という観点で評価するとされているが、準備書 405 ページの評価をみると、日影は生じるが時間は短いから影響は小さいと予測したと記載があり、回避・低減という観点からの評価ができていない。評価の手法と実際の評価のやり方の間にどういう整合性があるのか。また、日影の時間が短いから影響が小さいと記載されているが、どのような根拠があるのか説明してほしい。方法書市長意見書を交付したのが令和 3 年 4 月 8 日だが、それから 2 か月で植物への影響を調査・予測・評価できるのか。四季

を通じて公園にある植物は同じなのか。対象が木に限られているようだが、それだけで良いのか。

(事業者) 201 ページの環境影響要因の「施設関連車両の走行」という記載は誤りで、正しくは「建築物の存在」である。評価の手法と実際の評価の記載の整合性が取れていないという指摘については、確かに回避・低減策について記載すべきだった。風や日照障害を低減した具体的な措置については評価書にて修正する。方法書の答申案を審議する審査会を受けて、今年の3月に、相模大野中央公園と周辺の緑地で樹木活力度など調査をした。どのような根拠があって影響が小さいといえるかということについて、日影がかかる時間やエリアなどを整理して、補足資料として説明したい。

(片谷会長) 桑原委員の指摘は、図書に書かれている内容が、「ベストを追求する」という観点からは足りていないのではという指摘で、最初の石井委員の指摘とも重なる。評価書は環境影響評価の完成品である。準備書の審議として審査会が動いている間に、できるだけ補足資料として出してもらい、委員の確認をってもらうという手順で、足りない部分を補っていきたいと考えている。今日だけでなく、これからも多くの意見が出ると思うが、「評価書で追加する」という回答だけではなく、準備書審議中に追加資料を出していただくという対応が、「ベストを追求する」という姿勢のひとつであるので、ぜひそこはしっかり意識してほしい。

(事業者) 了解した。

(小根山委員) 交通混雑について。飽和交通流率については、実測をしたが通過台数の十分な測定が不可だったという理由で、予測にはすべて計算値を使っているという理解で良いか。

(事業者) そのとおり。

(小根山委員) 計算値で適切な予測結果となるのか見ておく必要があると思うが、確認しているか。

(事業者) 直近の2交差点については、飽和交通流率も滞留長も調べている。限界需要率0.9を下げていくという必要はないという判断で、このような記載にしている。

(小根山委員) 限界需要率というよりは、需要率の算出の段階で飽和交通流率の値を使うので、そのときに、計算値を使うのと実測値を使うのでは値が異なる。その結果として限界需要率を下回っていれば予測値としては問題ない。現地調査結果を見る限り、そこまで長い滞留長が出ていないようだが、渋滞が起きている時間が全くないわけでもない。予測結果については、実態に近いかたちで

評価した方が良い。ご検討をいただきたい。

(事業者) 次回までに補足する。

(田中副会長) 杭が帯水層の途中で止まっており、支持地盤に達していない。杭の支持力は確保していると思うが、帯水層の上部 7m までで止める理由はあるか。なお、杭工事が地下水に及ぼす影響に関する質問等の後日メールで事務局に送付するので、検討の上、回答をお願いする。

(事業者) 上部のローム層の地盤では支持体力が確保できなかったため、帯水層にまで打設する計画としている。

(白井委員) 杭の長さについて、計算上の最低の長さの何割増しの設定というような情報が良かった方がよい。173 ページの断面図は調査ボーリングを基にされているようだが、それであれば、ボーリング地点を平面図に示していただきたい。当該土地は、平坦な地形であると考えられるが、完全に平坦とは言えない可能性もある。補足としてそういう情報があるとよい。

(事業者) 杭の長さの計算根拠が、地下水への影響に対する調査のために必要という理解でよろしいか。

(片谷会長) 今の白井委員の発言は地下水というよりは、支持力について、どの程度安全率を見ているのかという主旨の質問かと思う。次回までにご対応をいただきたい。

(片谷会長) まだ発言をいただいていない委員もいるが、本日は時間にも制限があることから、本日の本案件の審議はここまでとし、追加の質問や意見は別途事務局に送っていただくことで対応をいただきたい。欠席の委員から預かっている意見はあるか。

(事務局) 宮脇委員から、廃棄物及び発生土の評価について意見を預かっている。「建設汚泥については全量を最終処分、建設発生土については全量を処分場への埋立てとしている。有効利用が困難な排出物ではあるものの、事業者には極力、一部でも資源化・有効利用の方法を検討していただきたい」という意見である。

(片谷会長) 持ち帰っていただき、どこまで対応が可能か、次回の審査会で回答してほしい。

## (2) 「中央新幹線 品川・名古屋間」事後調査結果報告書

「中央新幹線 品川・名古屋間」に係る事後調査報告書(その1)について、「参考資料」を基に、その手続状況が事務局から説明され、図書の概要について説明された。

( 3 ) その他

( 吉永委員 ) 本日の案件ではないが、「( 仮称 ) 津久井農場計画」について、現況どのようになっているのかを伺いたい。

( 事務局 ) 「( 仮称 ) 津久井農場計画」については、令和 2 年 3 月に準備書市長意見書を交付したが、評価書の提出には至っていない。直近では 6 月 28 日に蕪尾根の自治会から、蕪尾根の地区で募った 189 名からの反対署名及び要望書が市に対して提出された。7 月 21 日には事業者と直接話をし、現況を聴取した。準備書市長意見書で求められている地域住民との意思疎通について、まだ不十分だと考えているのと、熱海の土石流が起こった中、現状として住民の方々を説得していく状況ではないとのことで、まだ評価書を出せる状況ではないとの説明を受けた。

## 相模原市環境影響評価審査会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠
1	石井 信行	山梨大学大学院 総合研究部 准教授		出席 (Zoom)
2	小根山 裕之	東京都立大学 都市環境学部 教授		出席 (Zoom)
3	片谷 教孝	桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授	会長	出席 (現地)
4	加藤 ゆき	神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員		出席 (Zoom)
5	亀卦川 幸浩	明星大学 理工学部 教授		欠席
6	黒田 道子	東京工科大学 名誉教授		出席 (Zoom)
7	桑原 勇進	上智大学 法学部 教授		出席 (現地)
8	白井 正明	東京都立大学 都市環境学部 准教授		出席 (Zoom)
9	田中 修三	明星大学 理工学部 教授	副会長	出席 (Zoom)
10	塚田 英晴	麻布大学 獣医学部 准教授		出席 (Zoom)
11	畠山 吉則	日本大学 生物資源科学部 准教授		出席 (Zoom)
12	御法川 学	法政大学 理工学部 教授		欠席
13	宮脇 健太郎	明星大学 理工学部 教授		欠席
14	持田 幸良	横浜国立大学 名誉教授		出席 (現地)
15	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授		出席 (Zoom)